

# お客さまに信頼される資産運用

将来にわたり保険金・給付金等を確実に支払うため、高い健全性を維持しつつ、安定した資産運用収益の確保に努めています。  
また、責任ある機関投資家として、持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりに向け、ESG投融資やステューワードシップ活動等の責任投資を推進しています。

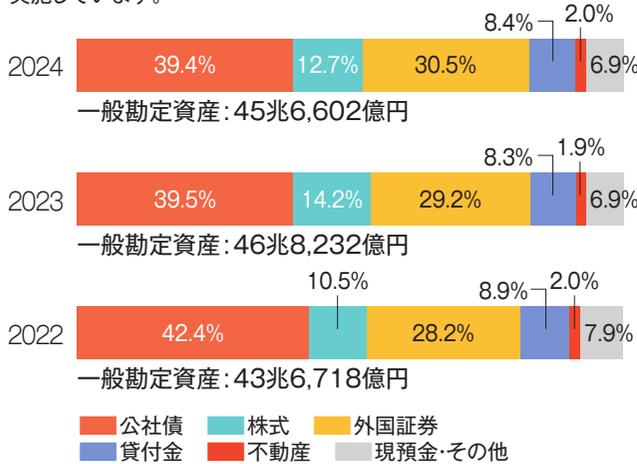
## 資産運用の基本理念

生命保険会社の資産運用は、お客さまからお預かりした保険料を原資としており、長期安定運用を使命としています。そのため、当社では、「ALMの考え方に基づき、良好な運用成果を長期にわたり安定的に確保する資産運用をめざすとともに、高度なリスク管理による資産健全性の維持・向上を図ること」を基本理念としています。

## 安定的な資産運用・高い健全性

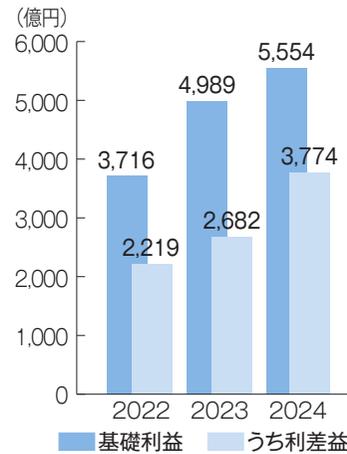
### 資産構成の推移（一般勘定）

公社債が全体の約4割を占める等、長期・安定的な資産運用を実施しています。



### 基礎利益・利差益の推移

不安定な市場環境のなか、安定的な資産運用収益を確保しています。



**4兆780億円**

### 資産全体の含み損益の状況（一般勘定）

「含み損益」とは、保有している資産の時価と帳簿価額との差額を指し、保険会社の企業体力をあらわすものの一つです。当社は、2025年3月末において、4兆円を上回る含み益を確保しています。



用語解説

**【ALM(アセット・ライアビリティ・マネジメント)】**資産と負債の総合的な管理の略称。ALMの基本的な役割は、保険契約に基づく保険金・給付金等(保険会社にとっての負債)の特性に応じた資産運用を行なうこと、また資産運用の環境を商品設計・販売戦略等に適切に反映させていくこと

**【利差益】**保険料算定時に想定した利益に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額のこと

## 責任投資に関する基本的な考え方

当社は、「確かな安心を、いつまでも」という経営理念のもと、ご契約者へ還元するための収益性を確保しつつ、責任ある機関投資家として、ESG投融資やステューワードシップ活動等の責任投資を通じ、持続可能で希望に満ちた豊かな社会づくりをめざしています。

責任投資の推進にあたっては、「ステークホルダーへの影響度」「事業との関連性」をふまえて、5つの重要取組テーマを設定し、重点的に取り組んでいます。

### ●責任投資における重要取組テーマ



## ESG投融資の推進

5つの重要取組テーマを中心に、ESG投融資およびインパクトファイナンスを推進しています。具体例としては、ウェルネス領域における社会課題解決をめざすスタートアップ等を投資対象とするウェルネスファンドや、投資資金が「地方創生を通じ未来世代を応援する」プロジェクト等に充当される静岡県が発行する「サクラ債(外貨建て国内債)」などに投資しました。特に注力するインパクトファイナンスについては、「中期経営計画」の目標金額を1,200億円から1,700億円に引き上げたほか、投融資の効果にも着目し、資産運用を通じて創出される社会的インパクトの計測の高度化にも取り組んでいます。

	2024-2026年度「中期経営計画」目標	2024年度実績
ESG投融資額	8,000億円	約6,000億円
うちインパクトファイナンス	1,700億円	約840億円



用語解説

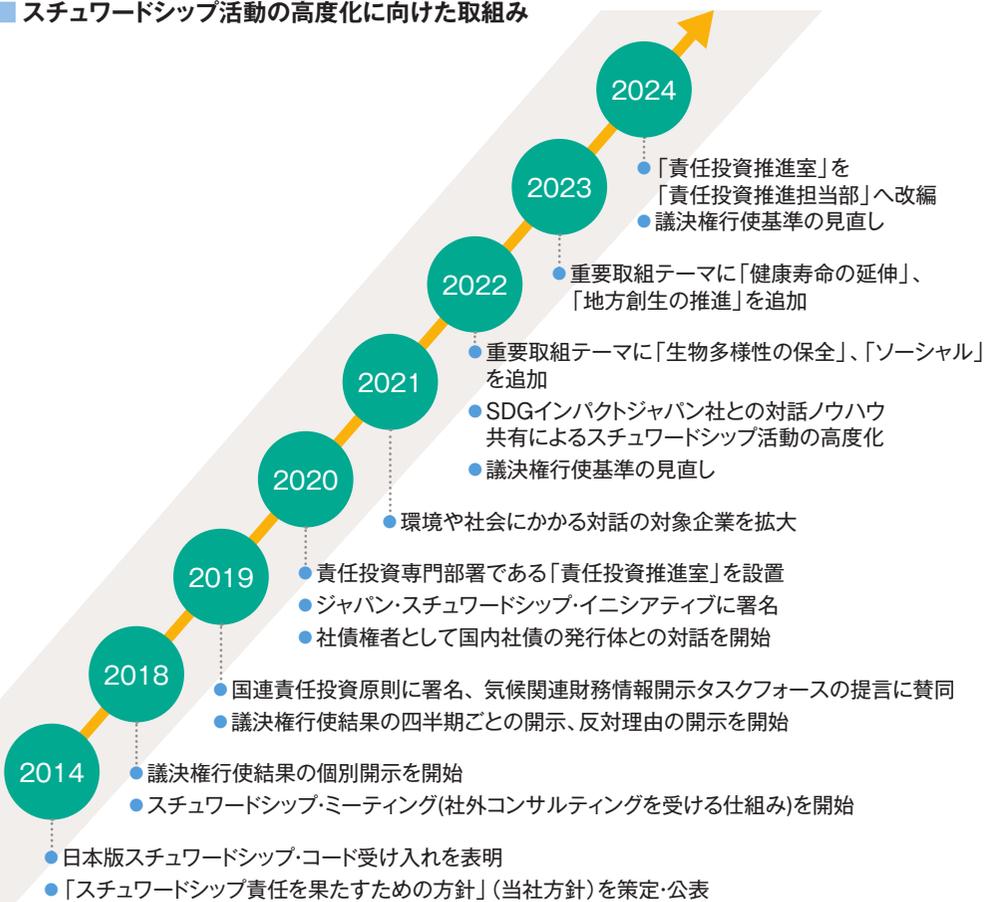
**【ESG投融資】**環境・社会・ガバナンス(企業統治)の3つの観点から企業の将来性や持続性を分析・評価し、社会的課題の解決と長期安定的な運用収益の確保を実現する投融資のこと

**【インパクトファイナンス】**社会や環境に対してポジティブなインパクトを創出することを意図した投融資のこと

### スチュワードシップ活動の推進

社会的な要請をふまえた議決権行使基準の見直しや開示内容の拡充、企業との対話テーマの設定等に加え、国内外のイニシアティブへの積極的な参画や(株)SDGインパクトジャパンとの協業等を通じて外部の知見を吸収するなど、スチュワードシップ活動の量の拡大および質の向上に取り組んでいます。

#### ■ スチュワードシップ活動の高度化に向けた取組み



用語解説

**【スチュワードシップ活動】** 受託者責任をふまえ、機関投資家が議決権行使や目的を持った対話(エンゲージメント)などを通じて、投資先企業の企業価値向上や持続的な成長を促すことにより、顧客(受益者)の中長期的な投資リターンの拡大を図る活動

### 責任投資を通じた、脱炭素社会実現への貢献

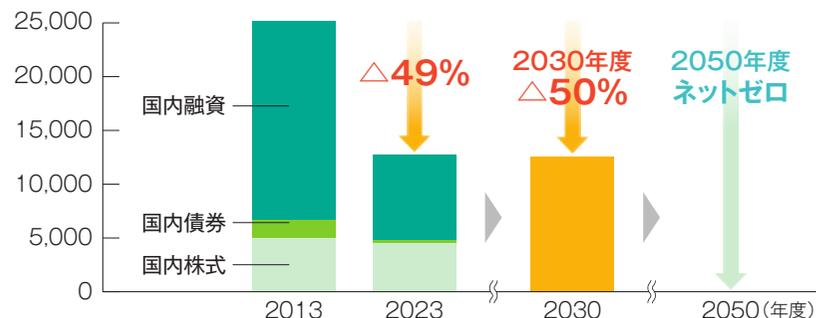
ESG投融资やスチュワードシップ活動(対話活動等)による投融资先企業の後押しなどを通じて、2030年度に投融资ポートフォリオのCO<sub>2</sub>排出量を50%削減、2050年度のカーボンニュートラル実現をめざしています。

#### 【脱炭素社会実現への貢献】

投融资ポートフォリオのCO<sub>2</sub>排出量削減目標(※):2030年度△50%、2050年度ネットゼロ

#### ■ 当社投融资ポートフォリオのCO<sub>2</sub> 排出量

(単位: 千t-CO<sub>2</sub>)



※2013年度対比。対象は国内上場企業の株式・社債・融資

### 外部評価

#### ■ PRI年次評価結果

(評価期間:2023年1月~12月)

Signatory of:



ポリシー・ガバナンス・戦略  
★★★★★(最高評価の5つ星)  
報告書の信頼醸成措置  
★★★★★(最高評価の5つ星)

評価対象の2項目について、2年連続で最高評価の「5つ星」を獲得しました。

#### ■ CDPによる気候変動調査

(2024年調査)



2年連続で最高評価の「Aリスト企業」に選定されました。



用語解説

**【PRI (Principles for Responsible Investment)】** 持続可能な社会を実現させるため、機関投資家に対しESG課題を投資の意思決定プロセスに組み込むことを提唱する国連責任投資原則  
**【CDP (Carbon Disclosure Project)】** 企業に対して環境問題への取組みの促進と情報開示を求める活動を行なう国際的な非営利団体